Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.038
カムホームストーリー

四万十市・Sさま邸
竣工:2013年6月
設計担当:岡本 理絵

「すぐ食器が取り出せて広くて動きやすい幅。
パントリーもお風呂場もすぐに行けて、本当に使い勝手がいいんです。」

「ここまで親身になってくれて、安心感が一番大きかったね」

アパート暮らしが長かったSさまご夫妻。結婚して3年が経った頃、「家賃を払い続けるより…」と、自由にできて財産としても残すことのできる「自分たちの家」を考えはじめました。

「人をよく見る」という旦那さまは、たくさんの人との関わりがある仕事柄。初めてタイセイホームの見学会に参加した時、「直感でこの人は頼りになると感じて」というお客様サポーターの山本に出会いました。「山ちゃんはやっぱり熱いよね（笑）」と、今ではニックネームで呼び合うほど親しみを持つ間柄です。

当時、「家を建てよう」と決めたものの、何から始めてよいか分からなかったお二人は、さまざまな不安も抱えていました。「まずは話を聞いてみないと何も分からないから」と、山本に家づくりの正しい順序、資金計画の立て方を聞くにつれ、自分たちの予算で無理なく家が建てられることが分かりました。建築費以外の見えない費用、生活が始まってからのランニングコストまできちんと計上された将来設計。「土地の交渉も頑張ってくれたし、ここまで親身になってくれて、安心感が一番大きかったね」と、心強いパートナーとの家づくりが進んでいきました。

「使い勝手とか予算面を含めて、やめといたほうが良いところはちゃんと止めてくれた」

南フランスを思わせるテラコッタ風瓦と、白く輝く塗り壁。内装は白とウォールナット色で統一した、上品で大人な雰囲気のSさま邸です。打合せでは、以前のアパートで良かったLDKの広さ、天井の高さ、旦那さまの仕事部屋、収納力を要望。他にもいくつかある中で、「岡本さん（設計コーディネーター）が使い勝手とか予算面を含めて、やめといたほうが良いところはちゃんと止めてくれた」という旦那さま。「あるものは使いたい」「これを置きたい」と、手持ちの家具などを一つひとつ測って写真を撮り、一冊のノートを作成。そこに岡本のアイディアを加え、図面に落とし込む。Sさまご夫妻が大切にしていたスヌーピーの絵は、いつでも眺められるようにと美術館を思わせた提案です。

奥さまは毎日立つキッチン周りの動線に「すぐ食器が取り出せて広くて動きやすい幅。パントリーもお風呂場もすぐに行けて、本当に使い勝手がいいんです」とご機嫌。「ほぼ変更なく決まった」という岡本との共同作業で完成した間取りに愛着もひとしおのSさまご夫妻です。

「見学会で見るうちにどんどん良さが分かってきた」

「自分たちだけの時はいいけど、お客さんはちょっと気になるかも」と、ダイニングからトイレの出入りが見えるのが少し気になるところ。これから家づくりをするご家族へのアドバイスです。

「見学会で見るうちにどんどん良さが分かってきた」という旦那さまは、自然素材も大きな決め手の一つでした。どこになんの素材を使うか、予算の中で検討を重ね、「見学会で見て決めた」と言うしっくいの塗り壁を室内に採用。「コレが一番良い」と話す訳は、冬場や梅雨時期でもまったく結露がないということ。住み始めて約3年、変わらず調湿効果を発揮し、「一度も窓を拭いたことがない」と言います。他にも消臭効果などがあり、ワンちゃんの生活臭もほとんどありません。断熱材にはタイセイホームが勧めるセルロースファイバーを使っており、夏はひんやり涼しく、冬場は雪が降る日でも室内はエアコンをつけずに約16℃を保っているとか。室内環境にもこだわった分、住み心地の良さにうれしい思いでいっぱいです。アパート暮らしでは叶わなかったワンちゃんとの暮らしや、自分の手で育て収穫した野菜の美味しさ、すべての小さな日常が大きな安心感につながっていると言うSさまご夫妻。「時間とともに味が出てくる家ですね」と、この家と歳を重ねていくことに、喜びを感じています。